

◆調査の目的とデータ集の内容

【2】

●目的

2008年から継続的に実施している大学生を対象とした大規模調査から、大学生の生活や学習、大学教育の経年変化を把握する

●内容

Part01: 高校から大学入学まで…………… p.6

高校時代の学習の様子／高校時代の学びの経験／高3のときの学習時間／大学進学理由／入学志望度・入学満足度／入学時と現在の積極性

Part02: 大学での生活と学習…………… p.13

力を入れたこと／大学教育観／大学の授業の様子／大学の授業の形態／授業に対する取り組み／学習に対する態度／生活時間／登校日数／授業の形態・効果実感／オンライン授業のメリット／オンライン授業のデメリット／身についた資質・能力

Part03: 大学生の人間関係…………… p.27

学内の友人関係／学外の友人関係／友人「いない+1人」の割合／友人になるきっかけ／人づきあい／教職員との関係／自立・親子関係／保護者との関係

Part04: 留学と就職…………… p.36

留学／就職活動開始時期／進路決定状況／インターンシップ参加／内定先・進路希望

Part05: 学びに対する意識・将来観/社会観…………… p.42

建学の精神・3ポリシーの認知／大学による支援の利用／大学満足度／学びの充実度／成長実感／姿勢・態度／将来観／自己認識／自他の関係／レジリエンス／コロナ禍の影響

◆調査概要

【3】

●調査対象

- 全国の大学1～4年生

●調査方法

- インターネット調査

●各回の調査時期・サンプル数

- 第1回 2008年10月 4,070名(男子2,439名、女子1,631名)
- 第2回 2012年11月 4,911名(男子2,791名、女子2,120名)
- 第3回 2016年11～12月 4,948名(男子2,680名、女子2,268名)
- 第4回 2021年12月 4,124名(男子2,228名、女子1,896名)

※インターネット調査会社の約930万人のモニター母集団のうち、「大学生」として登録されている約35万人に対して予備調査を実施。このうち、大学1～4年生(18～24歳、日本在住)にアンケートの協力を依頼。

※各回、文部科学省の『学校基本調査』の男女比率に近いサンプル構成になるように回収している。

●調査内容

- 高校での学習状況／大学選択理由／大学の志望度／入学時の期待／大学生活で力を入れたこと／大学生生活の過ごし方／教職員との交流／保護者との関係／友だち関係／大学教育観／学びの機会／授業方法(対面授業・オンライン授業)に対する評価／学びに対する姿勢・態度／大学生活で身につけたこと／海外留学の意向／進路意識／建学の精神やポリシーの認知／大学生生活の満足度／学びの充実／成長実感／社会観・就労観／就職活動・インターンシップ など

※調査内容は、経年比較が可能になるように毎回ほぼ同一の内容にしているが、各回ごとの問題関心により異なる内容を含めている。

●調査メンバー

- 川嶋太津夫(大阪大学)、杉谷祐美子(青山学院大学)、山田剛史(関西大学)、谷田川ルミ(芝浦工業大学)、樋口健(新潟大学)、小林一木・木村治生・朝永昌孝(以上、ベネッセ教育総合研究所)

◆第4回調査の対象者の属性

●調査対象は全国の大学1～4年生、4,124名回答

性別	男子	女子
	54.0	46.0

※以下の数値は、構成比率（%）を示している。

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
	25.0	25.0	25.0	25.0

所属大学	4年制	6年制	通信制	昼夜開講制	専門職大学	海外の大学
	93.5	4.6	1.3	0.4	0.9	0.1

※所属大学については複数回答のため合計は100%にならない。

学部系統	人文系	社会学系	外国語学系	法学系	経済系	国際学系	教育学系	生活科学系	芸術学系
	13.0	6.5	3.6	7.6	16.5	2.4	5.5	2.6	2.7
	総合科学系	保健衛生系	医学系	歯学系	薬学系	理学系	工学系	農水産学系	その他
	1.2	6.8	2.3	0.5	2.6	5.4	14.7	3.4	2.5

設置主体	国立	公立	私立
	23.2	8.2	68.6

大学所在地	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
	8.0	42.0	15.1	20.3	7.5	7.2

住まい	自宅	一人暮らし	大学寮	大学以外の寮	その他
	63.4	31.7	2.9	0.5	1.5

◆第1回調査から第4回調査までの対象者の属性に大きな偏りはない

◆主な結果の要約

【5】

Part01:高校から大学入学まで【p.6~】

高校時代の学習時間に大きな変化はないが、授業では「話し合う」「発表する」などの表現にかかわる活動が増えている。大学進学理由は、「興味ある学問領域がある」「大学名が知られている」などが減少した。第一志望での入学が増え、入学の満足度もわずかに向上している。

Part02:大学での生活と学習【p.13~】

「単位を楽に取れる授業がよい」「学習方法は授業で指導を受けるのがよい」が増加して、依存的な傾向が強まっている。授業の時間は減少する一方で、予復習・課題は微増、自主学習は変化がみられない。大学の授業は、コロナ禍で停滞がみられるが、アクティブ・ラーニング型の授業は広がっている。科学的な学習態度をとっているという自己評価も高い。現在の授業形態は、「対面が多い」が5割、「オンラインが多い」が3割。オンライン授業の自由さ・マイペースさを評価する一方で、「一方的な授業が多い」、「対話や議論がしにくい」などのマイナス面も意識している。

Part03:大学生の人間関係【p.27~】

学内の友人も学外の友人も、「いない」「1人」が増加して、友人数が減少している。友人になるきっかけが減っている。人づきあいでは、「友だちと話が合わない」と不安」という意識が強まった。教職員との関係では、授業以外で交流がある教員が「いる」が減少。保護者との関係は、困ったとき「保護者が助けてくれる」が増加した。

Part04:留学と就職【p.36~】

留学希望は減少。就職活動は、活動が早期化し、半数以上が3年生の夏休み前に活動を開始している。インターンシップは「半日や1日のもの」が主流。進路決定状況や内定先などに大きな変化はない。

Part05:学びに対する意識・将来観/社会観【p.42~】

大学の建学の精神や3ポリシーを認知しているのは3割に満たない。大学の満足度に関しては、半数以上が「満足している」と回答。しかし、学びの充実度や成長実感は、わずかに低下していて、2020年の数値が低い。16年から21年にかけて、「チャレンジする仕事がしたい」が高まる一方で、「幸せだ」「人生が面白い」という実感が減少。コロナ禍が自分にとってプラスかマイナスかをたずねたところ、プラスが4割、どちらでもないが3割、マイナスが3割であった。